京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

●金剛山行（三）

鈴木生

日本人を殺すなあと駆けて來たのは宿の主人里長である、里長は徐ろに說いて日本人を殺すの不利なることを三人の男に諭すのであつた、しかも三人の男は中々に聞かない、そこで里長も言を更めて『夫では仕方がないから殺すなり、生かすなり勝手にしろ、だが此處でやつて吳れちや村の者が困るから』と、願ふ如くに言ふのであつた、然し彼奴等は頑として應じない『此奴はツルマキを着て朝鮮語など喋つだりしやがら日本人ではチー朝鮮への一匹や二匹殺すのに里長の故障はあるめい』と私の方は其儘に顧みず、大きな石を撰つて三人共に腰をかけ、朝日を出して吸ひ初めた、其內に噂を聞いて駆け來る里人一人二人宛が集つて遂に二十人許りにもなつた、これが一緒になつて合議を始めたものだから、やかましいの何のと云ふ騷ぎではない、一時間程經てから三人の男は私は殺すのを思ひ止る事になつた此間の私の心持は如何でしたらう、生死の界此處に在りと痛さも忘れて、唯一念に話の成行に耳を傾けて居つた、やがて話は濟んで里人の一二が縛繩を解いて吳れた時は氣も早や緩んで全身がシク〳〵痛み出す、立ち上がらうとしてはグニヤリとやられる、三人の男は此有樣を見てわざ笑ひ里人に引張られるやうにして行つてしまつた跡で里長は彼の三人の男が此村での持て餘し者なること、里人は皆彼等の所業を惡むで居るも如何とも致方なかりし事など告げて私を慰めて吳れた私も里長の厚意を謝して身体の痛さは堪へ難いけれども、勇氣を鼓して、折から雲間を出でし月の光を便りに夜道を次の村まで行く事にした、一歩はヒヨロリ、一歩はグラリと。

里長は河原に立つて私の行く先を眺めて居る、其の霜の如き白髮は皎々たる月の光に照されて

御飯召上りませの聲に相手の男は話を止めた、見れば夕飯が既に出來て居て三人の前には膳が据ゑられてあつた、サバルに盛つた大盛飯からはホク〳〵と湯氣が立つ、胡瓜の漬物に鹽鯛の焼きもの、南瓜の煮つけに唐辛し味噌など云ふ工合にお菜が色々所狭きまでに膳を飾つて居る我等は此御馳走に舌鼓をならして暫くの間に食ひ盡した、夜は蚊が多いからとて、蚊藥をくすべて吳れたが朦々たる烟が室内まで入つて來て泣かせるのには困つた、薄暗い燭臺の光を浴びて彼の男はうつむいて居る遭難當時を追懷して居るのだらう、やがて彼の男は話を繼いで其の夜の明け方次の村まで着いて事情を憲兵隊に訴へ、その翌日再び案內者となつて短亭まで憲兵と共に出かけ、里長の家でまだ一人の砂金掘りが酒を呑んで遊んで居るのを引捕へて歸て來たと云ふ事を話した、彼の男はこれから金城の少し先まで行くのだと云ふ、我等も金城を過ぎて金剛山に上るのだと云ふとそれではよい都今ですから明日から一緒に登りませうと云ふ、我等も別に異議を申立つる譯とてはないのだから同行を約した田中は彼の男が熱心に話すのも何の意味だか判らないものだから橫になつたまゝ、た先へ寢てしまつたのである明日の行程を夢に見て居るだらう

鈴木氏に申す、原稿首尾不明の箇所あり來社の上整理せられたし

●視察團と居留民

本年春より現今に至る迄本邦より韓國視察の爲め來韓せし視察者は個人と團体とにて其數澤山ありしも在韓居留民の之に對する態度冷淡を極むるより何れも統監府、理事廳其他官公衙等に付き不滿足なる調査をなすのみ仔細に渉りて觀察せるもの尠なく之が爲め折角の來韓も何等の功果なく終るもの多く皆然りといふ有樣にて視察者の或る者は憤慨して歸國せる者もありと是等は居留民の最も注意を要する點にて爾後視察者には可成親切丁寧に應接して韓國の實狀を知らしめ以て母國人の韓國に對する注意を喚起するに努めたき者也と某有力者は語り

●鎭南浦港艀賃の低減

鎭南浦港に出入する貨物艀賃は從來他港に比し不廉にして一噸八十錢なりしを以て貿易業者は低減を希望し艀業者商業會議所等の間に問題となり居りしが有賀稅關長は貿易獎勵の爲め可成此等の諸懸案を低廉ならしめんとの希望を有し今回双方間を調停するに至れり然れども鎭南浦の艀賃は他港より高きは相當事情の存するありて同港は每年十二月より翌年三月迄は流氷の爲め船舶の交通杜絕なるを以て其間艀船も亦全然休業せざる可らざるのみならず平時と雖も貨物輸出入繁閑あるに拘はらず最繁時を標準として準備せざる可らず故に其低減は艀業者の大に苦痛とする處にして調停困難なりしも稅關長の盡力に依り圓滿なる解決を遂げ從來の賃率より二割を減じて六十四錢となし且多年問題となり居りたる直ち艀と稱し會社專屬船によらず商人の直雇に係るものは特別の場合に限ることゝし尙は從來一屯に付二十錢宛直艀手數料として會社の徵收したる料金も爾今廢止することゝなり去る十二日より實行するに至れりと

第十四席



伯山改 神田松鯉口演

そこで忠國は爲朝を伴ひ士卒を將ゐて館へ立歸りました、文珠院の住職は、彼の猿如何なる罪を犯したるにもせよ、我が寺へ逃入りしものなれば生命だけは助けやらんと思ひしに、遂に殺せしことの哀れさよと、大に猿の死を哀んで山門の外に厚くこれを葬り、猴塚と云ふ基碑を立てたさうでございます、さて、阿曾三郎忠國は爲朝を厚く待遇しまして、娘白縫にも爲朝の素性と智勇兼備の大將であることをば、語つて聞かせました、阿『さて白縫、唯今も申す如く源家の御胤ではあり、人品骨柄決して尋常の人ではなく、我が家の婿として決して恥かしからぬ人物、況して彼の猿を打取りし恩誼もあれば、其方も一生大切に仕へるが宜い』と申しますれば、如何に雄々しき白縫でも、流石に女の事でありますから顔を赤めまして、白『申すも嗚呼の至りホゝ、妾は武勇絶倫の夫を持ちたしと平生より阿蘇權現へ祈りし甲斐ありて、其樣なる英雄を得まするこど何よりの悦ばしう存じまする、御父上宜しく御願ひ致しますると、返答に及ばれましたので父忠國も大いに悦び、やがて黃道吉日をトし婚禮の儀式を擧げることになりました、さて當日になりますると、忠國は多くの郞黨を指揮して奇麗に座敷を掃除させ、山海の珍味を備へて三國一の婿君を迎へまする支度をした、白縫姬も今日を晴れと化裝を凝して席に列なり、三々九度の儀式も濟みましたので、白縫姬は我が部屋へ退いて爲朝の來るを待つて居る爲朝は式も濟み宴も果てたので、一人の老女が燈火點じて案內する後に從つて白縫の臥房を指して参ります、既に廊下の中程まで來りました時、彼の老女は『さ、此處が姬樣の御部屋でございます、貴方樣、御先へ御這入り下されませ』と、言はれて爲朝何氣なく障子引明けて中へ入らんと致しますれば、コハ如何に、突然物陰より現れ出でたる女子四人、白き衣を打襲ねて、素練の玉襷を掛け、手に一枝の櫻花を振り翳して『ヤッ』と聲掛け、爲朝目掛けて打つて蒐る、爲朝は『ヤア、物々しや、御慾なれ』と、腰の扇を執るより早く、枝の下を掻いくゞり、前後左右より打つ、女子の手をば、丁々發止と打拾へば四人とも『アッ』と叫つて櫻の枝を、バラリ〳〵と打落す、斯る、折りしも奥の方より同じ扮裝せる女子十八人あまり同じく櫻の枝をかざして、雄手より雌手よりバラ〳〵と群がり來り三國一の聟君をイザヤ祝ひ參らせんと、勤搖めき渡つて打つて掛かれば花瓣は、ヒラリ〳〵と糸遊の糸のもつるゝ如く、霏々として降る雪にも似て其風情得も言はれず、爲朝は泰然自若として扇を以てバタリ〳〵と枝を受留め或は打落す、其の早業、蝴蝶の風に飜へり電光の虛空に閃くに髣も髴たり爲朝の勇氣と手練とに女兵共皆一樣に疊の上へと蹌踉つたり、此時白縫姬は屏風後かに押開きて、出で迎へ白『是れは御無禮を致しました、八郎樣、御曹司、怪みたまふな、妾は幼き時より天が下に智勇優れたる勇士にあらずんば夫には持つまじと誓ひ失禮ながら、君の御武勇を試めさんとものをと、斯くは戯れを致したることは、深く御詫致しまするど、嫺やかに兩手を突きますれば、爲朝は且笑ひ且感じて惜しとも思召さず『イヤ拙者も其樣事ならんと思ひしぞ、然し千斤の石を轉ばす者はありとも此爲朝を打つ者は恐らく世に一人もあるまい、況して弓矢執つては鬼神も恐れざる拙者なれど、女兵如きに何んの恐るゝ處やあらん、拙者好んで史記の孫子傳を讀みつるが、孫子が女兵を操つりしことイト興あることゝ讀み居りしに、今御身の戯れしを目て孫子の兵法など想起し面白かりしぞよ』と申されましたが、爲朝の武勇一通の人でなくして學問の道にも深き御方なりと、白縫は大いに喜び、我が思ひ通りの夫を得しは畢竟日頃信心する天照皇太神の御蔭なりと、是れより爲朝を臥房に誘ひ偕老の契を結びましたが、夫婦仲も非常に好く忠國は益々悦びました。



京城新報

東京經濟協會に於ける演說（四）
峯岸本社長

東洋拓殖會社の現狀を申せば氣の拔けたラムネの如きものである政府は宜敷創設當時の考に立歸つて同會社に必要なる生命を與ふべきである、如何に補助金を與ふるとも生命となるべき仕事を與へざれば會社は活きて働けるものではないのである尤今日の處會社は極めて超然として世人の議擧を顧みずして種々の調査に從事し百年計畫に向つて進まんとして居るのである思ふに驛屯土問題と云ひ其他と云ひ解決の思はしく附かざるは、一は會社當局の罪とは云へ、遡つて考ふれば**政府が生付放し**にして後を良く世話せぬからである、但し現在に於ける會社の重役等が政府と株主とに滿足を與へんと期しつゝも寧ろ不滿足を與へつゝあることは事實である政府は宜敷**家鴨の態度**を取らず生付けたる責任はドコ迄も取つて同會社をして是非共創設の趣旨に副ふ樣に働かしむる樣にせられたきものである、私の見るところに依れば差詰め同會社の**定款**は勿論東洋拓殖**會社法**は改正せらるべきものである、何となれば今日の儘にては會社は法律定款に羈束せられて活動に不便を感ずるからである、會社は目下種々の小なる事業に手を出し、個人事業の範圍を侵すの傾向を示しつゝあるが此は甚だ面白くなき事にて創立の趣意にも反することなれば政府は今後成べく同會社をして直接拓殖に關係ある**鐵道及び拓殖銀行**の仕事を爲さしむる樣に世話せられたきものである拓殖會社の事業として成功せざらんか我移民事業は振はず政府國民ともに不幸を見ることになるのである、

●●●韓國銀行　韓國銀行は兎に角設立せらるゝこととなつた此銀行が從來の第一銀行に代つて如何ばかりの優點を將來に於て發揮するやは見物である、併し當座は第一と韓銀との看板の掛換に過ぎぬ事故ソレ程大した差が從來の第一に比してあるべしとも思われぬ、思ふに紙幣發行權を日本人なる第一銀行が持つて居つた爲に此問題も意外に圓滑に片附いたのである、韓國銀行とは實は看板の違ひなるまで其他は何等變りを見ざる元の第一の儘なれば在留邦人も韓人も新設銀行に對して何等不安の念を抱かざるは事實である、只爰に提出し置かざるべからざる疑問は第一銀行の支店は從來內地の金利乃ち日本銀行の金利に關係なく韓國金利の標準を立て居りしが新設の韓國銀行は此點を如何にするやと云ふことである思ふに日**韓經濟の共通**は日韓**金利**の**共通**に因つて實行せらるゝものなり韓國銀行の日歩が日本銀行の日歩と同じくなるに至つて實行せらるゝのである、此事を外にして日韓經濟の共通を計るも其は實行を見ること難いであらう、此意味を以てすれば**韓國銀行**は近き將來に於て**日本銀行**に**合併**せらるべきものである、否せずしては決して日韓經濟の共通を實現し得ざるものである（完）

東京電報

▲錦齊線と我態度
錦州齊々哈爾間の滿鐵競爭線計畫に對する我態度に關し當局者の語る所によれば日本政府は未だ嘗て之に對し北京政府に何等の抗議を申出す外電は爲にする所ありて抗說を傳へたるものならん該線は法庫門、新民屯線の如く日本の特權を侵害するものと趣を異にす然れども西伯利亞線により太平洋に出る捷路として滿鐵に至大の影響あるを以て其利益保護の爲め適當なる手段に出づべく北京政府に對し交換的條件として或る利權要求の交渉中なりと

▲錦齊線と露西亞
錦齊線は延長一千哩工費七千万兩の概算にして英米シンジケートが揚子江の計畫を踏襲せるものなり極東に大利害を有する露國が之に對し如何なる態度を執るべきやは一般に注目を要すべしと（二十日夜）

▲韓太子の御盛宴
昨夜麻布鳥居坂御用邸に於て韓國皇太子誕辰祝賀の晩餐會催され我皇太子殿下初め各皇族殿下御招待餘興として伊井蓉峰一派の演劇あり御一同非常に御滿足遊ばさる韓國留學生二百五十餘名は提灯行列を催し御用邸前にて萬歲を唱へ盛況也（廿一日）

▲滿州の金融機關
滿州金融機關設置に關する調査結了し正金銀行の業務を擴張し不動產抵當、長期貸付を營ましめ別に獨立したる銀行を設置せざるに決し近日閣議に於て決定する筈なり

▲小包制度の改正
現行小包郵便の容積縱三尺横一尺五寸を長三尺五寸とし重量は三貫目を超過すべからずと改正せられん事を實業組合より建議し主務省も贊成なれば不日改正さるべし（同）

▲滿洲實大と議會
滿洲實業大會の議題は左の如し（同上）
一、滿州銀行は特種性質のものに限る事
二、奉天ボイコットの善後策
三、大連安東縣定期航路增加の件
四、滿鐵運送業直營に關する件

▲列國の海軍豫算
來る四十三年度に於ける列強海軍豫算知左（同上）

英國	三億五千百四十二萬七千圓
獨逸	一億九千五百八十三万餘圓
米國	二億八千七百七十八万餘圓
佛國	一億三千八百五十三万餘圓
露國	一億〇〇二十八萬餘圓
日本	八千九百十四萬八千八百四十圓
伊國	六千七百五十五万餘圓

▲在外商務新設
外務省商務館設置費決定し新年度に於て倫敦、紐育、桑港、伯林、廣東の五ケ所に各商務館を設置さるべし（同上）

▲小川大將の薨去
豫備陸軍大將小川又次子は遂に薨去せり（同上）

▲嵯峨祇候の薨去
麝香間祇候嵯峨實愛子薨去せり（同上）

▲韓銀委員の招宴
松尾韓銀創立委員長は二十八日午後五時より委員會員一同を日本銀行々邸に招待し晩餐會を催し從來の經過を報告すべし（同上）

▲露國沿海州經營
露國は沿海州に於ける鮭鱒類を遠く歐洲へ輸出する計畫を以て冷藏列車を設け來春より實行す

▲米穀取引所總會
東京米穀取引所は今回の損害額補塡の途無により來月五日臨時總會を開き其結果を報告する筈

▲貯金一億五千萬
郵便貯金は現在一億二千七百萬圓に達し本年內には一億五千万圓に增加すべき見込なり（同上）

▲英艦提督の拜謁
今回橫濱へ港の英國東洋艦隊司令長官ランプトン將軍は幕僚艦長を伴ひ入京二十二日參內拜謁仰付けられ午餐を賜はる筈（同上）

紐育電報

▲駐清公使の後任
駐清公使クレイン氏は赴任に先ち辭職するに至りたるが其後任としてスタイプサンドフイチヤー氏に內命ありしが同氏は固辭したるを以てキユーバ島知事アピエン氏任命せらるゝに至るべし（廿日東京經由）

北京電報

▲清國の斷髮決行
清國にては西大后陛下御大葬後官吏、軍人、學生、巡警の斷髮を實行するに決せり（廿一日）

▲西太皇の柩奉移
故西太皇后の柩は來月九日北京を發し十二日菩陀山谷に至り東陵に奉移すべしと（同上）

▲張文襄公の銅像
張文襄公生前の功勞を追懐する爲學部大臣其他發起にて銅像建設の企圖あり各大臣の贊成多し

雜報

●法部廢止の勅令
法部廢止の勅令案は既に內閣會議を經たれば一兩日中統監の承認を經て發表さるべし

●間島政廳開閉期
間島に於ける統監府出張所の閉鎖と帝國總領事館の開廳は今月末若しくは來月の初めなるべしとは曾て報道したる處なるが今其筋に確めたる所に依れば右は來る二十七日を以て開閉することに確定したる由なり

●統監の帶同參內
昨紙所報の如く曾禰統監は石井武官、榊原憲兵隊長、小倉經理部長及び夫人てる子を帶同して參內皇帝に謁見仰付けられ更に夫人は別殿に於て皇后に謁見し了はりて午餐を賜はり小宮次官夫人、閔宮相夫人、李侍從院卿夫人及び女官數名に御陪食仰付られり

●韓國大臣の交迭
昨日左の通り交迭ありたり

法部大臣 高永喜 任度支部大臣
李容植 任學部大臣

尙ほ法部は近日廢止に付高度相其迄兼攝す

●キ元帥と古器物
キツチーナ元帥は廿九日夜入京の豫定なるが三十日は元帥が陶器古器物類を嗜好せらるゝを以て宮內府保存せる韓國陶器及古器物類を觀覽せしめ夫より軍司令部を訪問し大久保大將の第十三聯隊將校集會所に於ける午餐の饗應を受け同夜は曾禰統監の晩餐會に臨まるゝ由出發は三十一日の豫定也

●暴徒討伐と治道
治道の完否如何は運輸交通は勿論當局官憲に於て痛心せる暴徒討伐上多大の不便あり現に曩きに全羅南北道地方に於ける暴徒の勦討に從事したる渡邊旅團も軍隊の行動上尠からざる不便を感じたるを以て其筋へ治道の必要を要望したる程なれば內部土木局に於ては近々全羅南北道に治道工事を起す計畫にて之れが工費は光武十年より隆熙四年に至る繼續事業の治道費を充用する筈

●司法權の實施準備
愈々近日に差迫りたる司法權の實施に就きては其の筋に於て着々準備中なるが從來四十個所なりし區裁判所は之れを百三個所に增加する筈なるが來月一日までに五十四個所だけを開廳し本年中に八十個所と爲し明治四十三年度に於て全部の完成をなし從來の地方裁判所八、控訴院三は其まゝにて大審院一は高等法院となり二百餘の郡守裁判は此際全部撤廢せらるゝ筈なりと云ふ

●免稅法律の施行難
清津港關稅免除法律に關する施行規則は今に到るも尙は發布せられず恰かも幽靈法律の如く徒らに暗空に彷徨して之が爲めに同港在留民は折角の經營を進むる能はず日夜其不景氣に胃されつゝあるが當局者は間島領土權確定當時厚顔にも近々發布を言明したり然るに其後甚月を經るも杳として音なきを怪み其異相を探知したるに當局者の言は該法律施行延期の罪を間島問題に嫁し去り一時氣休めの虛搆說にして全く該法施行權の理由は國際上の原則に背戾せる法律たるが爲めなり則ち韓政府如何に清津港の發展に焦慮し同地のみの便宜を期圖するも貿易上の目的地は清領にして清國政府との交渉を沒視し得べからず縱令ば清津港は無稅港とするも清境の關門に於て課稅を受くる時は全然無意味のものとなり且つ第三國の均霑を拒む能はざる可し故に斯かる法律は他の主權を無視せるものにして先づ清國政府との交渉を遂げたる後ならざるべからず假りに清國政府之を承諾するとするも該政は明かに渾春及間島に對する出入物資の免稅にして地域を特定しわれば一旦清津港にて課稅を行ひたる後特定地に入れるを見屆け相當官憲の輸入證明を得て戾稅を爲さゞるべからず之が爲めに國境稅關を設置して監視の方法を講ずる等幾多の設備を要すべし如上種々の手續を忘却して該法律を發布せる爲め斯くは行惱めるものあり然れば結局該法律は到底施行の期なく統監政治の失敗中に葬らるべきのみなりと云ふ（電通）

●司法廳の職員確定す
司法廳の長官は倉富博士に確定し參事三名と書記官二名は從來法部に在りたる松寺、安住、山邊、岡本、淺田の各書記官之に充たる筈にて監獄事務官は神野書記官に確定し各裁判所は從來の儘なるが別項記載の如く晋州地方裁判所は釜山に移轉する筈なれば地方裁判所の所長には多少の異動あるべし

●韓人任命法官の總數
今次法權の實施と共に韓人中より法官及其の他の吏員を任命せらるゝ者は判事百十一名檢事七名書記百二十六名通譯生百三十一名の見込にして其位地は上高等法院より下區裁判所を通じて任命せらるゝ筈なりと

●兩派演說會と各辯士
一進、大韓兩派聯合演說會は廿三日國民演說團に於て開催の筈にて出演辯士演題如左

兩黨聯合の趣旨　尹孝定（大韓）
國民團結の勢力　鄭雲復（同）
一心團結の要素　劉鐵漢（一進）
國利民福の前途　韓錫振（同）

●警備船の到着ご見物
度支部にては今回仁川に到着したる警備船を觀覽に供する筈にて統監、各大臣、次官及び新聞記者等へ夫々案內狀を配布中なり

●內部の會計檢査勵行
近時官紀振肅の爲め不正官吏を減りつゝあるが內部に於ては所管官廳に對し會計檢查を勵行し以て官紀振肅の一助となすべしと

●統監並に夫人へ授勳
昨日統監の帶同謁見の際左の如く受勳あり

大勳瑞星大綬章　曾禰統監へ
勳一等瑞鳳章　同　夫人へ

尙統監夫人に銀製花瓶一對、箱入緞屬六卷を下賜されたり

●晋州地方裁判所移轉
晋州の地方裁判所は法部廢止と共に釜山に移轉する事となり目下移轉の準備中なり

●稅關監視船の仁川着
韓國稅關監視船六隻は一昨日午後五時發登巡視船光濟號に曳船せられ仁川に着港せり

●判事任命
昨日の官報にて如左發表す

任判事（叙奏任三等）　池田敬　土居偲夫
任判事（叙奏任四等）　高橋吉三郎

●韓銀の分課規定
韓銀分課規定は四局二室にして秘密及調査の二室は總裁に直屬し秘密文書と各種の調查事項を扱ひ庶務局は文書及銀行券の取扱を爲し其他は營業出納及國庫の各局なりと

●東拓漁業經營の順序
曩に日韓兩政府より水產業經營の認可を得たる東洋拓殖會社は明春漁期より開始の豫定にて目下西沿岸地方へ社員を派して實地の調查中なるが其結果韓國漁業法に基き經營の區域及び方法を定め韓政府の許可又は免許を要するものは之を受け然る上着手する順序にして一般漁業者と何等異なる特權なく曾て獲得區域の擴大なるのみなる由

●トロール問題の立消
一時漁業者の大問題として注視されたるトロール漁業問題は既報の如く農商工部に於て專門技師を關係地に派出し利害影響如何を考究中なりしが其後問題の主体たる該漁船は到底收支相償ふ能はざるものゝ如く孰れも去つて跡を留めざれば結局現在にては其要なきに到れり然れば同部にては更に充分の研究を遂げ徐に該問題を決すべしと

●仁川の金巾大に暴騰
昨今に於ける仁川の金巾商況を聞くに財界不振に伴ひ內地の產出高減少せし爲め在荷拂底の有樣にて隨て左の如き大暴騰を示す

種類	從來の相場	現今の相場
二△	百三十圓	百三十三圓
三印	百二十圓	百二十四圓
三ビー	百二十四圓	百二十七圓

●大韓商務組合の總會
負褓商と合同し全韓國に於ける商權を獲得せんとする大韓商務組合は來る二十七日全國組合員大會を開く筈にて目下地方支部に發送すべき召集狀を印刷し居れりと云ふ

●韓銀重役連の入韓期
韓國銀行は來る二十九日其總會を開き總裁以下の任命あり來月五日頃迄に諸般の準備を整へて大藏大臣官邸の事務所を引拂ひ同十日迄に總裁以下重役其他着韓の豫定なり

●仁川會議所の役員會
仁川商業會議所に於ては昨二十一日午後三時より役員會を開き漢江水運利用に關する件及び京仁間回數乘車券通用期間延期及同賃金低減請願の件に就き協議する筈なり

●日韓捕鯨會社の出願
曩に設立認可を得たる日韓捕鯨株式會社は今回巨濟島に其事業を開始せんと欲し基地及漁船の使用を農商工部へ出願し來れりと

●防疫委員慰勞會
岡內部次官は今二十二日今般の防疫事務に從事せる諸氏を擲翠樓に招待して慰勞會を催すべしと云ふ

●統監夫人の歸朝
統監夫人曾禰てる子は今二十二日午前九時出發歸東の筈

●明石少將歸任期
南韓暴徒視察中なりし明石參謀長は二十三日歸任の筈なり

●荒井次官の歸任
上京中なりし荒井度支部次官は來る五日東京出發歸任の筈

●池田局長の歸任
東上中なりし池田通信管理局長は一昨二十日歸任したりと

●平賀博士の入京
平賀工學博士は豫報の如く二十日入京し天眞樓へ投宿せり

●關野博士の北行
滯京中なりし同博士は二十日出發新安州に赴けりと云ふ

●吉松書記官歸任
北韓巡視中なりし吉松度支部書記官は去る十九日歸任したりと

●江華島方面巡視
仁川署菅野警部は巡査數名を率ひ江華島巡視の爲昨日出張せり

近事片々
▲韓國●棉花は頗る豐穰の見込也と播種以來天候順米國種も在來棉も一樣に良好也と
▲棉花●協會の指導に係はる改良耕作アプランド種作付は今や四百五十丁步に達すと
▲其收●獲は四十五萬餘斤に達すべく在來棉を合すれば其輸出高は九十萬斤に達せむ
▲米棉●稀有の暴騰にて祖國の紡績業は苦みつゝあれば期せずして韓棉に視線は集る
▲棉作●は韓國に於ける前途有望の產業韓棉の發達は祖國の利益益々獎勵の法を取れ
▲所謂●日韓合邦說と題し萬朝は某消息通語て曰くと四年來の韓國人心の推移を揭ぐ
▲伊藤●前統監の華美なる政治が一層韓民の生活難を來たせるも亦た蔽ふべからずと
▲近來●識見ある韓國人中自ら發展の方法を講せずんば將來豫想外の不運に會せんと
▲之を●自覺する者少なからず進で根本的に韓國の地位を轉換せんと企圖する者有と
▲今日●直に合邦論を云爲するは無稽に類すと雖機運は將さに此方面に進みつゝ有と
▲所報●悉く首肯す可らざるも韓國民は經濟上の點より確に之を望みつゝあるや明也
▲要す●るに韓國民現在の窮狀を脫するに眼前此外に良策なからむ是れ胃腑の問題
▲韓人●胃腑問題にも帝國の經營上にも此問題は頗る研究に價す統監の成算は抑如何
▲官紀●振肅の手始として慶尚南道田結書記壹岐警察部長の依願免官となる次は如何
▲今後●續々更迭行はるべきも總て是れ淘汰の意味を以て斷行せらるべしと報せらる
▲歐羅●巴の金利引上げは聊か稀有の現象に佛蘭西銀行迄が引上をなさんとは可驚
▲英蘭●土銀行の金利引上げは全く正貨の流失を防ぐ爲なるべしと云ふ或は然らんか
▲世界●の事業界頓に勃興せしに非ず唯米國が近時頻に事業勃興し來れるは全く事實
▲英國●內閣は豫算案上院を通過せずんば大に上院に對して強硬の態度を取るべし
▲首相●ア氏も藏相チョージ氏も頗る意氣軒昂上院に對して鬪戰的態度を持しつゝ有

元帥府會議
韓國鐵道問題
白銅引上ご警告
天氣豫報（自廿一日午後六時至廿二日午後六時）

▲元帥府會議 本日元帥府會議を開かれ天皇陛下皇太子殿下も臨御あらせられ歩兵操典改正案確定

▲食鹽價額引下 大藏省は特…（以上廿一日着）

▲韓國鐵道問題 韓鐵合併後は日韓に二つの特別會計を設け更に韓國に鐵道管理局を新設し十一月末より施行

本年十二月末は限りの通用なる舊白銅貨は期限内に引替へざれば貨幣たる効用無きにも拘らず地方の人民は今尚盛んに通用し居れるを以て度支部にては此際警告書を發す…すべしと云ふにありて全道三千個所に掲示を爲すと同時に面、洞、里長をして其管内の人民に之れと同一の趣旨を記載したる書…

△矢鍋永三郎（公州財務監督局長）會議に列席の爲め入京中の處廿日退京歸任 △川上常郎（大邱財務監督局長）同上 △矢野久三郎（平壤財務監督局長）同上 △…（鎭山校長）同上已に歸任へ △林文太郎（平壤鑛業所長）同上天眞樓へ △林田三德（法學士）二十日入京同上投宿す

南西風晴れ 十二日（華氏） 最高溫度 六〇、八 最低溫度 四三、三



後藤遞相を訴ふ

▲巡査を打擲せし爲め

後藤遞信大臣が去る十日馬車にて東京永代橋通行の際左側通行の法を破りたる爲め道路取締の深川署山中巡査が之を制止したるに遞相及び馭者は其無禮を憤り同巡査を打擲したる事は今や東都に喧ましき問題となり居れるが之れに對し深川署にては今に何等の處分をなさず有耶無耶の間に葬らんとし被害者山中巡査も亦署長の手前を憚り其儘泣寢入となりし姿に深川區相川町三東洋木材會社專務取締役佐藤富十郎（四四）氏は去る十二日山中巡査を其私宅に訪ひ折柄不在なりしより妻女に逢て慰問の辭を述べ「夫が歸つて職務大事に盡したのに鞭で打たれる胸倉は取られる帽子は泥中に打落されこれで猶且泣寢入にならざるを得ざるかと悲憤の涙を流し荒立れは身に災禍が及ぶかと止むを得ないと男泣きに泣きました」との話を聽き大に憤慨し同夜更に山中巡査を訪れ當時の事情を聽き俠骨稜々の佐藤氏は公憤の餘り失敬乍ら貴下の御一身は小生が引受致します法律の効力は國務大臣及び大臣に使はれる馭者に及ばぬと云ふ理由はない然るに深川警察署長が大臣の威に恐れて犯則の罪を問はざるの卑怯は勿論巡査に告發を爲さしめざるは法權を紊るものなり由來擧的を以て名高き後藤新平が白晝公然彼の擧行而も法律を犯して猶何等の咎なしとは奇怪至極なりいで此の上は自ら告發者となりて罪を天下の法廷に問はんと十五日山中巡査の談話を記したる告發書に新聞を證據として東京地方裁判所へ遞相及び馭者を告發したるが裁判所の態度こそ注目すべきものなり

偽筆を種の詐欺漢

▲在監囚徒の家屬を欺く
▲烱眼の密偵遂に檢擧す

原籍鳥取縣鳥取市材木町四十番屋敷當時京城旭町二丁目番戸不詳平民無職片桐四郎（三〇）は詐欺に最も妙を得たる男にて去四十年五月仁川理事廳にて委託金費消罪に依り重禁錮三ヶ月翌年九月統監府法務院にて詐欺取財犯に依り重禁錮一ヶ年罰金七圓監視六ヶ月に處せられたる前科二犯の惡漢なるが彼は尚ほ徴りもせず去る九月十二日永登浦監獄を放免せらるゝや在監囚人の父兄妻子より金錢を詐取せんと企て大膽にも出獄當日同監獄に於て囚徒書信用紙四枚を竊かに竊取して出獄なし即日永登浦小學校前大門萜造方に至り同所に於て監獄より竊取せし用紙に來る天長節に永登浦監獄在監囚にして假出獄を許可すべき者五六名ある筈に就ては看守長に贈賄の必要ある故至急調金して永登浦番町十六番戸今井幸枝宛送金せよ云々と巧みに詐欺の文辭を綴り他人をして頼く該書狀に信を措くに足らしむる書狀三通を作製し入監中に在監囚人中國元の生計富裕なりと想像し置きたる永登浦監獄在監囚徒柏木忠太郎の實弟鳥取縣西伯郡境港柏木正市に一通を同囚徒福島榮三郎の妻長崎縣南高來郡島原港福島わいに一通を同囚徒兼田馨の父廣島縣沼隈郡田島兼田彌右衛門に一通を各本人の名義を以て故らに郵稅先拂どして郵送し一面永登浦番町某雜貨店に至り自分は京城旭町二丁目百五番戸三浦方に居留する今井幸枝と云ふ者なるが都合に依り自分宛て書留郵便當家に到着すべき筈に付到着次第至急前記の所に通知を煩したいと巧に同人を欺きて京城に歸り旭町二丁目に潛伏して其機の到るを待ち居たるに話變つて前記柏木正市は四郎の偽造書狀を其實兄柏木忠太郎より差出したるものと確信して大に喜び無理算段して金二十圓を調達し早速郵便爲替を以て今井幸枝宛送附し來りたれば三浦方の通知に接し四郎は自分の民に美事羅りしを北叟笑み宙を飛で永登浦に至り三浦方より書留を受取り同地郵便局に於て前記の金額をまんまと詐欺して首尾よしと微笑を漏らし他の二通の返書到着を待受け居たる處を烱眼なる南部署密偵が同人の行動監視中早くも前述の惡事を看破し天網粗にして漏らさず遂に兩三日前逮捕せられたるが尚餘罪ある見込にて西部警部主任となり引續き嚴重訊問中なりと云ふ

又々仁川海岸の騷擾

▲千五百名の人夫鬪爭

仁川に新設されし日韓勞働組合と從來人夫供給を獨占せし應與廳の鬪爭紛擾に就ては既記せしが右に就き宮舘仁川警察署長は昨日應與廳の總務鄭某外關係人數名を召喚して說諭を加へ彼等は之れに服して同署を立出で海岸斗量場に來るや恰かも當日勞働組合の受負に係る穀類千五百石の陸揚中際會せしかば早速己が組下**千餘名**を**召集**して之れが**妨害**を試みしかば豫ねて警戒中の警官數名は極力之を制止し中には**拔劍**して**示威**せしも多數を頼める彼れ等は一歩も讓らず遂に海岸棧橋附近にて**千五六百名**入り亂れて**格闘**し又も勞働組の人夫數名を袋叩きし多數の人夫を**海中**に**投**ずる等非常なる騷動を演せしに急に接して仁川署よりは宮舘署長警部以下巡査十數名を引卒して現場に急行し憲兵隊よりは數名の憲兵騎馬にて駈け付け漸く取鎭め多數の關係者を拘引せしがこれが爲め一時は海岸より仁川警察署迄人夫を以て列を連ね非常の騷擾なりしと

東洋生命の疑獄

▲費消金十五萬圓

東洋生命保險會社は從來餘り評判の良らざる方なるが今般同社**重役**は勝手に**保險金約十五萬圓**を**費消**したる件暴露し株主並に被保險人側に於ては非常に激昻し將に一大疑獄の行はれんとする噂頗る高しと云ふ

人車と自轉車の衝突

▲商品陳列棚に飛び込む

本町一丁目四番戸齊木堂店員中澤夏作（二十）と南部明洞統戸不詳車夫金書房（四十）の兩人は一昨日午後一時四十分頃本町一丁目裏通り三巴商店前に於て喧嘩口論を爲しゐたるを巡邏中の南部署警官が認め直ちに駈付け兩人を制止して取調べたるに前記車夫は客を乘せ右側を通行中中澤が自轉車にて驀然に駈來り右側へ避くべき筈を左側に避けんとせし一刹那金車夫と衝突し剰へ同町五十一番戸彫刻業梅田勇造方の商品陳列棚に車を突き飛し硝子三枚を破損せし騷ぎに梅田は兩人に辨償方を請求せしに中澤が右側を通行する例なるにも拘はらず左側に避難せし爲め損害を與ねたるのみならず車夫にも右手に微傷を負せたれば硝子の辨償金六十錢を中澤に支拂はしめて示談和解せしむ

三國一の大馬鹿者

▲職は大工で年は廿三

明治町二丁目五十番戸の三大工職橋詰正富（二三）は一昨二十日午後七時半頃南部洞統戸不詳金書房方抱蝎甫李杏花（二十）を十六錢五厘の珍無類の情約にて李の部屋に乘込み巫山の夢を結びたるは誤[illegible]幸なりしが誤謬のと云ふて逃走せんとせしかば訴に依り南部署警官出張して取調べたるに正富は鹿爪らしく申立つるには自分は部屋には這入りしが李の機關部檢査の結果危險なりと認め中止したれば金を支拂ふ義務なしとて嘗ない權利を主張して始末に了ねざるに同人を本署に引致して口の酢になる程御說教を聽かされ悄々と引下りたりとは口程にもない色男だワイ

酌婦の無斷家出

仁川猫島新地甑樓の抱酌婦吉岡しも（二三）と云ふは一昨夜十時頃無斷にて家出したる旨其筋に訴出であり しかば手配中昨朝七時頃右しもが宮町派出所前を通行しつゝあるを認め呼び止めて取調べたるに二三日前髮を蝶々に結びたるに痛くも同樓女將の忌憚に觸れ以後決して髮は各々好む處に依りて結ふべからざる旨嚴しく命せられしを不服とするのみならず親の承諾なしに醜業を營まれざる規定となりたれば斯かる面倒臭き仁川に居るより何れなり鞍替するに如かずと無斷にて家出し昨夜は支那町居住の漁業總本作太郎方に一泊し今しも口入屋に赴く途すがらなりとの事に樓主を呼び出し說諭の上引渡したりと

蝎甫と懷中時計

仁川本町三丁目居住の金澤代言人方書生小川荒彦と云ふは一週間前花町の韓妓店尹用順方にて遊興したるが其際持合せの金子なかりし爲め懷中時計を置きて歸り一昨日現金を持參して時計を受け出さんとせしに不埒にも右時計は遺失したりとの事なるにぞ大に立腹して其旨花町派出所に訴出でたれば係警官取調べの結果右時計は遺失したるにはあらで同町の久保三四方に入質しあるものと判明せしかば說諭の上示談せしめしと

韓童を海に突込

仁川新昌洞居住の乞食韓童ハンガー（九つ）と云ふは一昨日午后一時頃仁川海岸にて遊び戲れ居る日人子供數名と凧の糸を取りしとか取らぬとかの事から口論の末日人子供の爲め加之に石垣より海中に突き落されしかば何かは以て堪るべき後頭部に長さ一寸深さ五分の傷を負ひしかば其旨宮町派出所に訴出で應急の手當を受けたり

不孝者の說諭願

仁川濱町居住の漁業丸本京太郎（二三）と云ふは大の不孝者にして其父忠四郎の吩咐を守らざるのみならず竊かに親の印を盜み出して持船の轉籍屆を爲さんとするより說諭方右父より訴出で一昨日本人を呼出し係警官の嚴しく將來を戒めたりと

韓人泥の四苦尻

南部后洞六十九統八戸金璽九（三七）は二十日午後八時五十分頃明治町一丁目百五十五番戸帽子商添古久市方にて中折帽子一箇（價格五圓五十錢）及び本町六丁目雜貨商某方にて洋傘六本を竊取したる事發覺し南部署の手に捕はる

擔夫に掻浚はる

京城竹園町一丁目二十二番戸の二岩野すゑは去る十九日午後六時南山町一丁目より現住所へ轉居の際新御召縦縞藍色表支那縮緬白色裏付女袷羽織一枚（價格七圓餘）を擔夫に竊取せられたり

公判だより

十一月廿二日午前九時より法務院に於て左の民事公判ある筈なり

（一）貸金請求、上訴人本間忠三郎、被上訴人瀧野善一（二）家賃金請求、上訴人鈴木亦二郎（三）總會決議無效宣告請求、上訴人峰岸繁太郎、被上訴人東洋拓殖株式會社（四）曾掛代金請求、上訴人林甚七、被上訴人石田暢

白兎の迷子一頭

仁川山手町居住の質屋業小野瀨某は同町にて白兎一頭を拾得したる旨屆出でたりと戀の來る闇を晝寐と洒落れて居たのなるべし

一昨夜の新町

一昨夜新町遊廓の登樓客は總計七十八名にて此揚高四百十七圓三十八錢なり

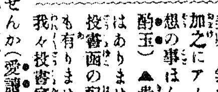
吉凶鏡

本町五丁目 三一館判斷

十月廿二日舊九月九日九紫大安乙卯さる

△一白 障害失錯生じ易し愼重に事を辨すべし旅行金談等不調△二黑 一生面を開く日なり仕官就職依頼對談等良好△三碧 順調の日なれども退歩を意味す身の上に付き心配あり△四綠 概して康寧の日なり但し家庭内の小事に留意すべし△五黃 進達の日とす只虛浮潤色に流るゝなかれ△六白 新事見合の事但し建築土木冶金の事には宜し△七赤 轉倒の日なれば新事及復雜の事は見合せたるべし盜害損傷防ぐべし△八白 盛運たり依頼相談等整ふ建築及金屬の業務には大に良好△九紫 窮厄非運なり萬事謹むべし殊に鑛山冶金の事には凶尚旅行出帆見合すべし

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はる可し



▲平民文庫◀

▲龍山新市街蕎麥屋東京亭は美味も無いくせに安くもない加之にアノ婆々の慳貪な無愛想の事ほんに癪に障らア（一瓢酌玉）▲貴社には龍山に支局はありませんか若し無ければ投書函の配置は有ますかそれも有りませんければ何んとか我々投書家の便利法を設けてくださいませんか（愛讀者）▲警察の取締に屬する營業者が當然なる己れの權利を主張する場合其の意見のある所を當局官吏に向つて陳述すると忽ち感情に觸れてあの野郎は生意氣だ小理屈ばかり言ふヨシ將來に見て居れッ（犬養敵子）▲十月十二日の龍山時報一頁の插畫は私には何んだか少しも判明りません（抱腹轉倒子）▲此の新開地に此の不景氣に此の諸物價不廉の場合に料理店飲食店の如き蚊弱い營業者のみ嚴重の取締を爲すは全く可哀想だ（仁川同情生）▲吾輩は法律及び社會の制裁なるものを甚だ怪しむ見よ呑舟の魚は常に網を漏れ居るを嗚呼世の中は遂に弱いもの苛めなるか（同人）▲龍山では豆腐を一ツつ三錢で賣るヤレ有難い（豆腐好き）▲むらさんは「れ顏さへまだ白雪のふり積る、思ひの竹の一と節を割て碎いて打ち解けて、濡れて見たさのむら雀、時を慕ふ妾が氣を、主は知つてか知らずにか（うろ子）▲痛み入らざるを得ざる次第でござる（ひら）▲京城では飲食店に數名の雇婦を置いてある龍山では料理店で無ければ一名以上の雇婦は置けぬ而も少し容貌でも美つて小奇麗な形裝をして居れば下婢とは認めぬコンナ女を置くならば料理屋の額を出せと威し付けらるサリトテろくに客も無い此の不景氣に何んとして[illegible]ことが出來やう泣面に蜂とは此の事だとコボして居た飲食店があつた（京城贊成生）▲ヨボ燒栗アンデと杳公の嚴命沒收の厄に逢ふ亦再三然も猶止めない此頃は歩哨を樹て杳公を見れば合圖をする燒栗など…と隱して知らん顏、予は寧ろ其忍耐と勇氣を愛す（春郎）▲タカヂアスターゼを三十五錢で賣る家と三十二錢で賣る家と三十錢で賣る家とある（衛生家）▲突如として郵便夫が來た電報ではあるまいかと先づ胸轟く葉書なので安心はしたもの心臟は猶烈しく鼓動して居る吁々故郷に老ひたる母を持てる自分はこんなに神經過敏になつて居るのだ（はの字）▲京城に來き家が澤山殖へましたね（仁作）▲京城囊會に東都歌留多會の飛將軍前田君が居られる相な僕は同會の大會若しくは練習所でもよいが同君の取りつ振りを見たいと思ふな（一狂子）

新學期開講

大日本國民中學會

入會の好機は將に去らんとす

▲萬朝報曰く中等教育程度の講義録は何十種あれども大日本國民中學會の發行物程善き物は他に見へず

▲報知新聞曰く大日本國民中學會の講義録は中等教育程度の諸講義録中優に一頭地を拔けるものなり

此際速に規則書を要求せよ見本と共に無料進呈す可し

▲中等教育の素養なき者は遂に社會の劣敗者たるを免れず、諸種の事情により中學校に入ると能はざる青年にして短き時間と少き學費とを以て完全に中學全科を獨習せんと欲する者は本會に入れ、本會の講義録によりて學習せば中學在校者と何等異ることなき學力を養成し得べし

▲會長、尾崎行雄氏會務を監督し、專門諸大家講述の任に當る
▲組織、全然文部省令に據り新式の方法にて正則完全に教授す
▲講義、言文一致書入り總假名付きなれば獨習には最も適せり
▲質問、講義録中不明の處あらば何回にても自由に質問を許す
▲會費、最も低廉都合一ヶ月の遊學費あらば全學期を卒ふべし
▲特典、會員には新國民を毎月無料進呈し會員の作物を掲載す

東京駿河臺神田 **大日本國民中學會** 電話本局三三〇〇番 三七〇七四番

●電話開通八百三十五番●

唐津石炭直輸入商

並ニ平壤無煙炭あり

京城太平町一丁目九五 南大門高等女學校裏通り

近藤商店

營業科目

活版、石版、銅版各種印刷
帳簿裝釘、書籍製本及ビ印刷
諸材料販賣

日韓印刷株式會社

遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候

本社 京城明治町三丁目 電話三二三番
出張所 東京麹町區麹町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

表裝一切 襖 製作販賣

原料を精撰し技術審美的にして價格亦頗る廉價なるは弊堂の特色!!

京城明治町二丁目 古香堂主 **山本平治**

石炭木炭

歐米雜貨。食料品。和洋酒
吳服太物。時計。貴金屬
洋服。文房具。家具
金庫。煙草。牛乳

陸軍諸官衙御用達

淺野石炭部龍山代理店

龍山新市街山下町二丁目

Ⓡ **龍山兄弟商會**

電話架設中
取次電話百四十八番
電信略號リウ

各種洗濯石鹸製造販賣

專門製用途

陸軍、鐵道、船舶、鑛道、鑛山、水道湯屋散髮、諸工業用

京城旭町二丁目（電話九七三番）

朝日石鹸製造所

事務所移轉業務擴張廣告

從前の家屋狹隘に付今般左の地に事務所を移轉し大に業務を擴張し一層誠實懇篤を以て左の事務を取扱申候

追て司法權委任の際は更に新設の裁判所附近に便宜上出張所設置可致此段併て豫告仕候

業務要目

一法律上諸般の質疑應答
一訴訟及非訟事件に關する書類の作成
一登記申請證明查證願に關する書類の作成
一會社銀行組合の定款諸般契約書類の立案
一土地家屋の測量製圖
一債權の取立讓受及紛議の仲裁

京城旭町一丁目二百八十二番戸

增本好三郎事務所（電話千五十番）

明治廿年七月創立● 京城代辦店 本町四丁目山口吳服店 電話九番

東京火災海上運送保險株式會社

資本金一千萬圓● 事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

辯護士 特許代理業者

京城明治町二丁目（佛國教會前）

岩田仙宗

電話三五四番

一とろゝ汁 拾貳錢
一麥飯 五錢

會席御料理 御一人前 金五十錢
吸もの、さしみ、口取 外ニ一品御酒一本付

京城曙町（元大韓日報社跡二階建）電話取次千四十二番

俵すし

松善

折詰御辨當及出前は特に勉强御調進可申候間多少とも御注文希申候

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候

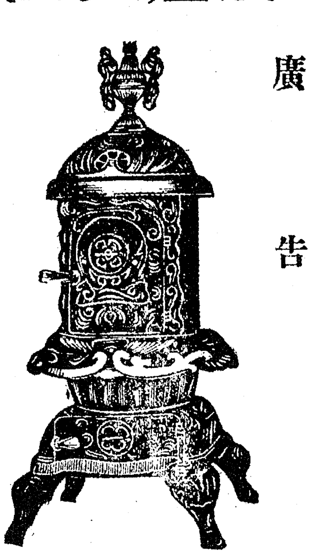
京城南山町四丁目

原金旅館

（電話長一〇七番）

暖爐各種

廣告



煙突取付並ニ煙突掃除大勉强

京城本町五丁目角一番戸 電四七一番 **馬木勇吉**

龍山山下町兵器廠官舍通入口 電三六四番 **馬木支店**

各官衙御用

新疊及表替調進

竹中彦太郎

電話六七〇番

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

仁川海岸通 電話三九番 貨物及船客取扱店 **郡回漕店**

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 十月二十四日正午出
●大連、太沽行 高砂丸 十一月十八日正午時出
●大連、大沽行 山東丸 十一月九日午前四時出
●大連、大沽行 酒田丸 十一月四日正午時出
●釜山出帆、元山、清津、浦潮行 立神丸 十月二十七日午後出

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事



◉賣捌は全國各藥店にあり

一大營養新藥 人體の肥料 牛乳の數倍

商品用 **提札** LABEL 製造元 井本增進堂

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金四十五錢 三ヶ月前金…
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 …
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 久神一郎
發行所 京城新報社